

久保田宇治市長

静岡の地震でも地下水の大切さが証明されたのに、なぜ宇治市長は逆行するの？

# 裁判長の提案を拒否！

## ポンプ交換—水道部の管理責任放棄を追認

☆これまでの経過は・・・

私たち住民は「開浄水場休止は給水契約違反」と1年半裁判を続けています。今年2月、ポンプが一時停止後、水道部は再度停止したら直ちに休止（府営水に切替え）と表明。本来係争中は、現状維持—給水継続と管理責任は市水道部にあり—と考えています。私たちは水道部にポンプ交換を要求すると共にポンプの寄附も決めました。

また法廷で、「ポンプの故障を理由とする一方的休止は、裁判を受ける権利さえ奪うもの」と訴えました。

裁判長は、再三水道部にポンプ交換の打診をされましたが水道部は予算がないことを主な理由に拒否。このため裁判長は、「市長に、ポンプ及び交換費用を寄附する申入書」提出を私達に提案されました。このため私達は、住民集会や自治会の役員会でこの提案を検討。寄附することを決定し、7月15日、市長に「寄付申入書」を提出しました。

☆開浄水場存続のために

約二百五十万円の寄附金を集めることは各自治会ともにも大変なことです。それでも「夏は冷たく冬温かい。良質の開の地下水を飲み続けたい、子や孫たちにも残したい」「災害時に命綱となる井戸水を守りたい」という、みんなの思いが結集したのです。

☆なのに・・・市長は拒否

8月6日、宇治市長の回答書を裁判所で受け取りました。なぜ市長は、この寄附を拒否するのですか。

☆回答書の拒否理由は、ウソの羅列

回答書は、議会で**6点の理由**により休止を決定した」と述べています。これは大きな嘘。休止を提案した時も、決定した予算議会でも、休止理由は、「水質悪化（環境の指導があった）」と老朽化による経費増大」の**2点のみ**です。

その後、議会質問や府の調査等で、水質悪化は事実無根と判明。休止理由から水質悪化は姿を消し、老朽化にポンプが加えられるなど、6点の理由が新たに作られたのです。「ポンプ交換することは、議会決定に反する」とは、全くの虚偽。議会決定を持ち出し、寄附を拒否する理由は全く無いので